

第1回 信州みちビジョン検討委員会 議事録

開催日時：平成29年8月3日(木) 13:15~15:15

開催場所：長野県庁 西庁舎1階 110号会議室

<議事次第>

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 委員紹介等
- 4 議 事
 - (1) 意見交換会の実施結果について
 - (2) アンケート調査の実施結果について
 - (3) 基本方針・主要施策について
 - (4) 主な取り組みについて
- 5 その他
- 6 閉会



検討委員会の様子

- ・資料1：信州みちビジョン検討委員会設置要綱
- ・資料2：事務局説明資料
- ・資料3：準備会での主な意見
- ・資料4：意見交換会の実施結果
- ・資料5：アンケート調査の実施結果
- ・資料6：基本方針等の体系表

<議事録>

基本方針・全体構成について

(足立委員)

一つ確認させていただきたいが、これは長野県が管理している道路についてのビジョンとなるのか、それとも市町村道や歩道なども含めた話のビジョンなのかを教えてください。

(事務局)

今回のビジョンは、主に県が管理している道路についてと考えている。
ただ、高速道路などは視野に入れて計画を行う。一部の市町村道についても含むことになると思う。

(足立委員)

非常に良くまとまっている。しかし、論点がとても多い内容で難しい。
一つは、道路・みちの特徴を念頭に置いてアプローチをする必要があると思う。
人と物を運ぶものではあるが、鉄道などの異なる手段と比べて、みちの根本的な役割を考えると、構造がしっかりしているもの、そして効率的に運べるもの、という観点が一つある。
もう一点は、道路というのは周辺との連続性があるので、外と直接つながった、親和性という機能を持っていることがある。そこから、ただ輸送するだけでなく、景観などの観点が出てくる

と思う。

その中から、道路の機能と、道路の持つ周囲の地域振興ということについては、どこの県も同じようになってしまうので、もう少し長野県としての特徴、信州みちビジョンなので、機能の整備だけでなく、長野県らしさを打ち出した方が良い。長野県の道を走ると楽しいなど、信州ならではのものを盛り込んでも良いと思う。

もう一つは、これからの大きな技術革新を考えていく必要がある。IOT、全てがインターネットにつながっていく時代が具体的に進んでいく。自動車は研究が進んできているが、技術の進展を見つつ、例えば次のパーキングは空いていることが道を走っている間にわかるなど。そういったことを長野県のみちビジョンとして取り入れていくということは、楽しく未来志向であり、特に観光県であるため、そのような内容も検討いただければと思う。

(事務局)

長野県らしさの指摘があったが、この後に長野県らしさをふまえた施策方針について、ご意見をいただきたい。技術革新については、IOT、自動運転の大きなうねりが来ているため、出来るだけ多くの情報を取り入れて参りたいと思う。

(武者委員)

全体の大きなフレームワークについて、意見を申し上げたい。

みちビジョンというものがなぜ、いまこの段階で必要なのかについて、もう少し意識的に考える必要があると思う。これまでは、言い方は悪いが道路を、ビジョンを持たずに作ってきたが、これからはビジョンが無いと作っていけない時代になってきたという転換点にあるということは共有されていると思う。

そう考えたときに、今回3つの基本方針が「つなぐ」「まもる」「いかす」と出ているが、この3つで本当に良いのか。「いかす」は新しい視点があるのだと思うが、これまで、ビジョンなく作ってきたというのは、いわゆる住民意見、ある意味無限の要望である住民ニーズに基づいて、まさにつないで、まもってきた結果、現状があると思う。「つなぐ」「まもる」も大切だが、今回新たにビジョンを作る上では、「つなぐ」「まもる」だけでなく、もう少し見直す、あるいは見極めるという視点を前面に出していかないと、ビジョンを作った意味が無いのではないかという気がする。

前回の準備会で、高瀬先生から、全体の水準を上げていく話なのか、もしくはメリハリをつけて行くような話なのかを考えなくてはならないとあったが、まさにその点をもう少し視点として入れていかないと、今回ビジョンを作る意味があるのか心配になる。

具体的に申し上げると、資料6の2枚目体系表その2に、今回の取り組みを体系的に整理されていると思う。主な取り組みのところに、既存の取り組みとあり、ここはこれまでの道路の作り方を良く表していると思う。これに今回新たに右側の取り組みを追加していくという視点だと思うが、追加というよりは、おそらくこれから新しい視点を取り入れて、既存の取り組みを見直す、見極める、既存の取り組みに「(継続予定)」とあるが、これを単に引き延ばすのではなく、IOTのような新しい技術が出てくると、既存の取り組みがどう変わるのか、ということをもう少ししっかり考えた方が良い気がする。

例えば、イライラ箇所の対策とあるが、これまではイライラ箇所の対策に、より新しい道路をつくるという発想だったと思うが、それを例えば、右側に書いてあるモビリティマネジメントによって、使い手側の意識を変えることによって、交通量を減らすなど、右側の話で、左側を変

えていくような視点が無いといけない。

単に、住民の意見を取り入れて、応えていくという姿勢がなかなか変わりにくいのではないかと感じる。

(事務局)

今回「つなぐ」「まもる」に加えて、「いかす」の部分を出るだけ充実させたい。その中で、見直すや見極める、の観点を含めて、今までは「つくる」「まもる」一辺倒だったかもしれないが、これはベースとして継続的に続ける中で、これから「いかす」部分をクローズアップして、その中に新しい考え方を入れていければと思っている。

(武者委員)

もちろん「つなぐ」「まもる」は大事だと思うが、イメージとしては、「つなぐ」「まもる」はこれまでと変わらず、横串の二本として考え、つなぎかた・まもりかたとして、新しく縦串のようなものを通して整備をしていった方が良いのではないかと思う。

(高瀬委員長)

現在県だけがやっている取組を中心に物事を考えているので、もう少し、国や、市町村での取り組みを見渡して、全国的にもトップレベルを走っていることが行われているかもしれない。そういうことがあまり認識されていないため、そういうところをもう少しクローズアップしていくと長野県らしさという部分がでてくると思う。

今後追加・拡大が考えられる取組の内の半分くらいは、全国的にみるともう実施されている内容だと感じる為、少し違和感がある。

(河野委員)

パワーポイント5ページ目に構成案が示されており、基本方針と現在の課題の部分について、前回の準備会の際には、向こう20年30年を見据えて、社会の変化を予想し、それに向けて暮らしやすい道をとというイメージで作るとの話だった。この目標のさらに上に、長野の中でも地域によって異なる道の在り方と求める機能について、例えば山間部や都市部の住民の道の使い方と、道と結節している他の交通機関の使い方がどうなって、どのように暮らしている姿を目指すのかという考えが必要だと思う。

交流人口についても、レンタカーを使った外国人、自家用車を使った東京からの観光客にどのように長野県での滞在を楽しんでもらい、道はどのようにサポートできるのかという青写真が大上段にあって、それを具体的に実現するための目標として定めていくのではないかと思う。

「いかす」の部分だけ腑に落ちにくかった。「つなぐ」「まもる」はすっきりつながっているが、おそらく新しく入れたものなので、「いかす」が見えにくくなっていると思う。もう一つ、「いかす」の前の段階で、向こう20年、30年を考えたときに、例えば総合計画の12ページに、10年後、20年後を見据えて重点的に取り組む政策の方向性の中に、人と自然の「いのち」を守るとある。長野県らしさという中で、豊かな自然環境が一番上にあるにも関わらず、環境に関する事、生態系に関する事と道の果たす役割に関連するワードが一つも出てこないというのはどうか。交流人口や、長野県の価値を継続的に維持するという意味ではとても重要な視点だと思う。

そうすると、「いかす」の前にまず前段として「損なわない」という概念があり、なくしてはいけない物があって、その上に活かしていくものが出てくるのではないかと思う。

(事務局)

今の3つのワードの中では「損なわない」という視点は、カバー出来ていない部分であるた

め、参考にさせていただきながら、煮詰めていきたい。

(藤澤委員)

長野の道路整備率が全国的にみてもあまり良くないというのは承知しているが、現状では、基本方針等の体系表その2の主要施策で整備を行われてきていると思っている。

基本方針は、「つなぐ」「まもる」「いかす」で良いではないかと思う。

「既存の取り組み（継続予定）」についても、県は十分現状を把握されていると思う。様々な要望活動をしてきた中で、財政が厳しい中、いろいろと対応いただいているし、北信の方は、高速交通網が良いが、長野県の中信はあまり良くない。

大きな77市町村の県道を守っていく上で、道の果たす役割は大きく、そこを活かして長野県らしさをビジョンとして作っていく、今までの事を踏襲していくということは大事だと思う。新しいことを入れるのは大事ではあるが、財政が厳しい中なので、道の果たす役割、災害時や、生活道路、観光、経済の活性化にも必要不可欠なものであるため、ぜひそのあたりを考慮に入れてビジョンを作った方が良いと思う。

(倉島委員)

ビジョンなので、将来像だと思うが、10年間の中で、現実的に成せるということも考える必要があると思う。そうすると優先順位を考える必要があると思う。

2点質問がある。一つ目は、資料5の優先整備道路のところ、木曾地域には高速道路が無いにも関わらず、希望する人がゼロとなっているが、どう捉えているか。

資料4の1ページ、43の維持修繕のアダプトとは何か教えてもらいたい。

(事務局)

まず一つ目のアンケートに関する質問だが、木曾地域は6名のアンケート結果となっており母数が大変少ない状況となっていることが要因の一つと考えられる。居住者の人口比の割合でアンケートのサンプル数を決めている為、このような数となっている。今回回答いただいた6名の中では、高速道路を希望する方がいなかったということだと思う。

木曾については、山間地の道路整備について強い要望をいただいている。

もう一点、アダプトについては、通常除草などは、県が管理すべきところであるが、なかなか手が回らないところがある。これについて地元の方に団体を作っていただき、道路の美化活動を行っていただいている。この活動について、県でも補助等を出しており、アダプトとはこのような活動の事を示している。

(中村委員)

「つなぐ」について、佐久女性みちの会は、中部横断自動車道を一日も早くつなげてもらいたいという活動を行っている。太平洋からも、日本海からも一番遠いのが佐久市となっている。現在佐久から静岡まで5時間かかっている。ただ太平洋につながるといっただけでなく、中間には高原野菜の産地があり、運搬に時間がかかるため、たとえばレタス農家は、朝2時に起きて出荷しないと間に合わない。

道がつながることで、海のものも食べる事が出来るようになり、喜びを感じている。

中部横断自動車道が小諸から佐久南 IC までつながった。佐久南には道の駅が出来ている。無料道路のため、外からの方にも来ていただき、佐久の良さを知っていただきたいと思う。みちを通してどう発展させたらよいかを考えていきたいと思う。

まずは中部横断自動車道を通していただきたい。そのためにも皆様の声をお借りしたいと思

っている。

(柄澤委員)

準備会の際に、予算が限られているため、優先順位をつけることが必要ではないかという意見が出ていた。体系表を見ると、これまでの活動を継続して、なお且つ今後追加・拡大となっているが、これまでの活動の見直しが、予算の面からも必要ではないかと思う。

また、資料5のアンケート結果7ページでは、歩道の整備についての項目が全国との差異が大きくなっているが、取り組みの中のどこに入ってくるのか。

さらに、10年先は飛躍的に技術革新が進みIoT、AIなどの産業への導入により、多方面で現状と違ってることが想定される。インフラの整備・維持管理の部分をはじめ、もう少し反映した方が良いのではないかと思う。

(事務局)

まず、見直すという観点でご指摘いただいたが、「いかす」の中、又は前段として見直すという観点を入れて打ち出し方を考えていきたい。高齢歩行者の歩道整備の関係については、基本方針等の体系表その2の主要施策⑧の中の歩道等におけるユニバーサルデザイン化、技術革新については、主要施策⑧の中の自動運転などの部分に反映して取り組んでいるが、情報を取り入れて、技術革新についても練り直したいと思う。

(三井委員)

今回は10年のビジョンを作るということで、今までの政策としての取り組みを、部局横断的にビジョンを持って、進めたいという話が前提としてあったと思う。舗装道路といった道だけでなく、今後20年・30年を見通したうえで、新しい技術や生活様式を取り入れていく方向性を明確に出していく必要があると思う。

例えば、観光立県・高齢化・人口減少などをふまえ、安全を確保しながら、外から来る観光客等に対しても魅力的なものを強く打ち出すことが優先順位になっていくと思う。

また、広い長野県全域で形式的に公平、平等だけを優先すると、全てが少しずつしか進まない。ビジョンとして優先するものは、スピード感を持って、今まで20年、30年かかり完成させていたものを5年、10年で作るなど、スピードを上げていく方向性を入れていくべきだと思う。

ビジョンをもう少し明確に、全てを網羅的にではなく、より先を見通したテーマをビジョンの第一として掲げて、そこに優先・集中していくという観点を入れるべきだと思う。

(事務局)

今回の資料は網羅的なものになっているが、この後で長野県らしさのご意見をいただこうと思っているが、それを受けて、長野県らしさというものを打ち出していきたい。

(高瀬委員長)

見直しをしっかりとしないと、これはというものが出てこない気がする。網羅的に出過ぎていて、さらに追加ということになっているので。「いかす」が弱いのは、⑦～⑨は昔からの道路の機能であるものをあえて「いかす」と呼んでいる様に見えるからではないか。河野委員の「損なわない」というのはそのようなイメージかと思う。車の無い時代も人々の交流、子供の遊び場も道路の役割であった。もう少しひねる必要があると思う。

IOT、ICTをどうするのか、主要施策・基本方針に入っておらず、取り組みに入れていくとぼやけてしまい、弱くなってしまうという意見が多かったと思う。

本日は、基本方針と主要施策について決めていきたいということだが、取り組み等は次回以降反映できていくと思う。

まずは、基本方針と主要施策をご議論いただきたい。どう変えていけば良いか、もしくはこのままいくのか、ご意見をいただきたい。

(河野委員)

体系表その2の組み換えが今後必要になっていくというところで、施策の中身をどう変えるかには触れないが、ビジョンが薄いという話になる理由として、施策の後に、今までやってきたことがあって、その後にオントップという形にしているので、ビジョンとずれが出てきているというのがこの資料構成だと思う。たとえば、災害に強い道路網整備というものがあるとしたら、その下に今実施しているものではなく、さらにブレイクダウンして、例えばそれを円滑な輸送、広域の輸送、人なり物資の輸送が出来るというジャンルと、地域・道路としてのレジリエンス向上などの細目に分け、何を実現するかという項目があり、それぞれの下に、これまでやってきたことを入れる。ただ今の技術革新によって、他の項目と合わさって、楽にできるようになる等、取捨選択が出てくると思う。そうするとオントップにならずに個別の施策をかけるようになると思う。消せるものや、技術革新でまとめることが出来る項目が出てくると思う。

一番感じたのは、「いかす」の道の駅で、これまで道の駅が持っていた機能と今後10年、20年の道の在り処を考えたときの道の駅の機能というのは、大きく違うことが求められている。オントップの考えで道の駅分類してしまうと、間違っってここに入ってきてしまうが、本当は「つなぐ」の部分に入ってくる機能だと思う。防災や、主要都市からの他の地域とのネットワークなど。そうなると、体系表の中の右と左との結びつきが変わってくると思う。

(事務局)

ご示唆戴いた部分を考慮し、打ち出し方を考えたい。道の駅については、これから重要なキーワードになると考えており、おそらくすべての方針に関わっていくと思う。「つなぐ」「まもる」「いかす」については、重なる部分があるので、そんな意味合いも考えていきたい。

(中村委員)

長野県は面積が広く、様々な地形があるが、みちビジョンと地域性の関連というのは、どのように考えられているか。全体についての話ばかりな気がするが、地域によって求めることが違ってくると思うが、そういったことも考えてみちのビジョンを作られているのか。

(事務局)

今回資料で示しているのは、県全体版として考えているものを出している。ただ、アンケートでは地域ごとに求めているものが違うことがわかっている。地形や地域の歴史から思いが違ってくると思う。出来れば反映したいと思っているが、一枚にしてしまうと薄まってしまっているというところもあると思う。

(中村委員)

その地域性をどのように生かしていくのかを教えてください。

(事務局)

難しいご質問のため、今はお答えするのが難しい。

(高瀬委員長)

地域振興局でそれぞれの場所ごとに考えるという状況になっている話だと思う。

それをどうつないでいくのかという話だと思う。地域をどのように発展させていくのかをそ

れそれでやっている話をどうつなげるのかということだと思うがどうか。

(事務局)

総合政策局で次期五ヵ年計画を策定しており、その中に地域編というものが出来ると聞いている。今回のビジョンで作成した考え方に基づいて、それを五ヵ年計画の中に生かしていきたいと考えている。ビジョンの中では特定の地域について言及することは考えていないが、この考え方に基づいて、五ヵ年計画の地域編等に生かす形となる。

(高瀬委員長)

そうすると、部局をまたいだ連携が全く無いような気がする。

例えば地域振興局にしても交通政策局にしても、警察にしても、様々な施策を行っていて、それをいかに上手く道路でつなぐかということが必要なので、もう少しオブザーバーの方々の意見を取り入れた方がと良いのではないかと思う。

(事務局)

連携は重要だと思っているので、引き続き情報を取り入れていきたい。

(高瀬委員長)

そうしていただきたい。先ほどの道の駅についても、県よりも国でやっている部分が多いので、参考にするだとか、上田の道の駅では、アダプトのシステムとの関連で、オープンカフェなどを行っていたりする。警察でも環状交差点等いろいろなことがされているにもかかわらず、道路でやる事に固まっているような気がする。

(藤澤委員)

基本方針は、「つなぐ」「まもる」「いかす」の3つにまとめたいのか、主要施策は10あるが、数にはこだわらないということで良いのか。

(事務局)

まとめていくとこの3つ程度ではないかということなので、当然この検討会の中でいただいた意見を受けて見直していきたいと思っている。

(藤澤委員)

確かに網羅的で良いが、重なっている部分もあり、道の駅は観光・防災、多くの要素につながる。道路は様々な要素を含んでいる。道があれば安心安全な暮らしが出来るし、防災・災害対応も可能となり、観光で地域の活性化にもつながる。

色々なものを考えてビジョンを作るべき。体系表その2はしっかりできているので、これをうまくまとめて行けば良いと思う。今回の委員の方々の意見と財政面を考えてまとめてもらえばと思う。

(高瀬委員長)

基本方針はこの3つで行くという形で良いか。もう一工夫できるものならばこうした方が良いのではないか等の意見をいただきたい。

(武者委員)

体系表のその2で行くと、横軸基本方針3つはそんなに変えられないかなと思う。

横の3つの方針、9つの施策は仮に良いとして、整理の仕方として、この縦軸がどうなのかと思う。既存の取り組みにプラスアルファで何かをするということではなく、一番右で示されている新しい道路空間のあり方、を使って、既存の取り組みがどう変わるのか、変わらないのかを関連付けて整理する必要がある。その作業のなかで、方針と施策がこれで良いのかが変わってく

るのではないかと思う。

(高瀬委員長)

表中の主要施策のところから、整理が必要。ボトムアップ的な整理が必要だという意見をいただいた。まとめ方としては、基本方針に落とししていくというところは理解いただいていると思う。

(事務局)

ボトムアップ式に取り組みがどう変わっていくのか、より説得力のあるものに作り替えたい。地域性について意見をいただいたが、地域が望むものとして整理を行っていききたい。

(高瀬委員長)

その際には、各委員の皆さまの意見をいただきながら、行った方がいいと思う。次の会議でポンと出てきても同じことの繰り返しになる可能性がある。

長野県らしさについて

(高瀬委員長)

長野県らしさを前面に出していきたいということなので、資料2のP.12 総合計画審議会の議論、P.28 の長野県らしさということを受けて、長野県らしさについて、必要な視点について意見をいただきたい。

(河野委員)

資料3 観光客へのアンケートでは、アクセス性についての満足度が低くなっている。

資料2のp.28は、公式な書類からプラスの特徴を抜き出しているのがこの5点だと思うが、生データに遡ると、アクセスに対する満足度が低いという声がある。

専門の観光分野からいうと、観光客の来訪目的トップ3に必ず上がる「食」というものの満足度が長野県は全般的に低い。海のものが入りにくいことや、そうすると季節感が出にくい等の要因が考えられる。そういったことを受けて、外の観光客からの魅力を持たせるという意味で、長野の弱いところを解消するための道路づくりとして、海からつなぐということも説得力を持たせられるかと思う。観光客のアクセスを良くするといっても、全員が車で来るわけでもないので、どこまでやるかは別問題だが、大都市圏へのアクセスの良さと言い切ってしまうのは、どうなのかというところがある。

また、観光客の自然についても来訪者の目的トップに来る。さらに満足度が高くなっている。外の観光客からの魅力としては、一番といっても過言ではない。

今後ビジョンと照らした中で、観光客にとってどういう道なのか、道は何を出来るのか、住民にとっての道は何なのかについて、もっと議論をするべきだと思う。

(武者委員)

上位計画に長野県らしさがこう書いてあると、確かにこう書かざるを得ないところもあるが、おそらくこのP.28の長野県の特徴から落とし込んで行っても、とってつけた感が出てしまう。そうではなく、長野県らしさを、長野県民の生活から考えていく必要がある。

例えば、各盆地の中心市街地で、今後10年でどんな暮らしが成り立つのか、そこから考えたときに道路空間がどうあるべきか。

主な取り組みの一番上に市街地道路の整備とあるが、今後10年でこれをどんどん進めていく

ことが重要なのか、または過疎地の暮らしを考えたときに何が重要なのか、そこからボトムアップで考えていくべきだと思う。

(藤澤委員)

中山間地に住んでいると道路の必要性を痛感している。ただ、長野県の道路は、南北方向は強いが、東西方向には弱い傾向があると思う。観光や生活で不便を感じることが多い。

都心部へのアクセスは良くない、特急あずさで3時間近くかかる。弱みは、地形が急峻で地盤が脆弱で、でも自然をするには享受仕方がないことかとも思う。都市部と田舎がうまく調和しているとも思う。うまく道を交えて都市と田舎が交流できるということも入れ込めればいいかと思う。

(高瀬委員長)

おそらくそれが地域性を考えていくということだと思う。画一的に地域と地域を結べば良いというものでもない。たとえば秘境と呼ばれるところが便利になったら価値が下がってしまう。

地域がどういった方向を向いているのかをもう少し考えられたほうが良い。

(三井委員)

10年のビジョンを作るときに、長野県らしさはものすごく大切だと思う。

全体のビジョンづくりから行くと、自然環境を大事に考えることは観光資源という意味でも重要であり、便利な道路はいいけれども、景観が損なわれないように工夫して作る方向性を明確に示すこと。それから、観光に来た方にリピートしたり、滞在したりしてもらえる地域は、その地域に住む人々が満足している土地である、とさまざまなアンケート等の結果から読みとることができる。地域と一体となった魅力ある「みち（道路、街、景観）」づくりが必要。

例えば、雪の対策についても、地域に任せてしまうのではなく、長野県に行けば生活に必要な道路は除雪がしっかりしている、又は融雪設備が整っているなど。あるいは画一的な道路を作るのではなく、石畳の道のある街のように、車を止めて歩きたいくなるようなみちがあるなど、こういったことを方向性として伝える必要があるのではないかと思う。

(高瀬委員長)

時間となったため、ここで議事を終了したいと思う。追加意見等があったら、事務局に提出していただきたい。資料については、作成の段階から共有すること。

議事の進行にご協力いただきありがとうございました。